アハバール・カシオン

第297号
JICAシリア事務所
2024年10月24日

事務所関係者

アンマン勤務
JICAヨルダン事務所内

森畑　真吾　所長 ヨルダン事務所長兼務
川谷　暢宏　次長 ヨルダン事務所次長兼務
森　　裕之　職員 ヨルダン事務所兼務
大桑　京子　職員 ヨルダン事務所兼務
古川　浩一　職員 ヨルダン事務所兼務
林　まゆみ　企画調査員
宮川　佳子　企画調査員
最首　映代　企画調査員

公休日

12月29日～31日　年末休み

アハバール・カシオン 名前の由来について

アハバールとはニュースを意味するアラビア語。カシオンとはシリアの首都ダマスカスの北に位置する旧約聖書にも記されている山の名称です。

バックナンバー

バックナンバーは下のリンクをクリックしてご覧いただけます。

アハバール・カシオン| シリア | JICA

事務所から

2011年4月28日以降の関係者国外退避に伴い、JICAシリア事務所は現在JICAヨルダン事務所内に日本人所員執務所を設けています。

今号の特集記事

レポート

- レバノン学校改善計画
- 帰国研修員同窓会活動
  - JAAS（シリア）
    (JICA Alumni Association in Syria)
  - LEBA-JICA（レバノン）
    (JICA Alumni Association in Lebanon)

離着任あいさつ

- 離任あいさつ　柳　竜也　次長
- 着任あいさつ　川谷　暢宏　次長

レポート

レバノン学校改善計画

レバノンの学校改善に向けた事業が進行中

レバノン教育・高等教育省（MEHE）とJICAが協力し、シリア人難民ホストコミュニティ調査の一環としての学校改善計画（School Improvement Plan, SIP）パイロットプロジェクト実施から約6年。MEHEとJICAがSIP実施ガイドライン最終案を統合してから約4年。この数年の間に、レバノンは経済危機、ベイルート港の爆発事故、長年に渡るシリア人難民受入、南部でのイスラエルとの紛争等、様々な困難に立ち向かい続けています。

レバノン 学校改善計画

SIP・リーダーシップ研修の様子

そのような情勢のなか、難民ホストコミュニティの経済・社会的安定化支援プログラムの一つの活動として、MEHEとJICAは再びタッグを組み、過去のJICAとの調査やMEHEによる他の援助機関と実施したSIPの改善点を取りまとめ、レバノンにおけるSIPの普及やリーダーシップ向上を目標とした研修テキストを2024年1月に完成させました。このテキストを活用し、今年の2月から3月上旬にかけて、約150名の小中学校の校長を対象に4日間のSIP・リーダーシップ研修を行いました。同研修の修了式にはMEHE大臣が参加、同大臣からは日本政府・在レバノン日本大使館・JICAへの深い謝意が示されたとともに、参加した校長らへ激励と今後への期待が述べられ、研修は成功裏に終了しました。今後はSIPの実施方法や研修成果を検証するため、選ばれた10校でのパイロット事業を計画しています。

修了式の様子

今後、この活動の成果が広まり、経済的に困難なレバノン人家庭の子どもたち、シリア人難民の子どもたちが多く在籍している学校でも活用されていくことを願っています。

Reported by
宮川企画調査員

シリア

帰国研修員同窓会活動

帰国研修員同窓会とは

JICAが実施する各種研修に参加した元研修員によって組織・運営されています。JICAの研修で得た知識・体験を広く社会に還元することを目的として、慈善活動や元研修員による各種研修の実施など、精力的な活動を行っています。

JICAシリア帰国研修員同窓会（JAAS）のメンバーは、これまでJICAの研修で得た知識や経験をシリアの人々に伝え、慈善活動にも努めてきました。今回は2023年度の活動計画の一環として、2023年10月にダマスカス大学で行われた災害対応ワークショップについて紹介します。

シリアでは2023年2月6日、大地震がラタキアとアレッポの2県を襲い、多くの命が失われ、家屋やインフラも大きなダメージを受ける等、甚大な被害が生じました。この経験を受け、今後シリア国内での防災意識を高めることを目的に、日本のこれまでの防災に対する取組みを紹介するワークショップを開催しました。本ワークショップにはシリア国内の大学教授、学生、民間企業等、様々な方が参加しました。

セミナーの様子

日本はこれまで多くの自然災害を経験し、それらの災害からの復興と災害予防の取り組みで世界的に知られています。基調講演では、JICAの防災専門家である西川氏がオンラインで参加し、日本の震災経験と教訓を共有するとともに、シリアの防災に関する助言も行いました。

また、シリア高等地震研究所のハラ博士は、日本の経験を基にシリアの建物の耐震基準を厳しく設定する必要性と、最新の耐震技術をシリアの建築に導入する重要性を説明しました。さらに、行政開発高等研究所のサマー博士と民間防衛局のアフマド准将は、災害を防ぐための準備と計画の重要性を強調しました。 最後に、参加者はワークショップを通じて災害予防の方法を学び、シリアの人々に震災予防に関する知識を共有することの重要性が再確認されました。

このようにシリアの帰国研修員同窓会活動は地域の福祉に貢献する重要な役割を果たしています。

Reported by
オウラ職員

レバノン
帰国研修員同窓会活動

レバノンの帰国研修員同窓会LEBA-JICAは、これまでレバノンで数々の活動を行ってきました。

LEBA-JICAは毎年、レバノンの公立学校で日本文化との交流を目的とした絵画コンテストを開催していますが、2023年度についても、2024年3月5日、在レバノン日本国大使館の馬越大使のご臨席の下、開催されました。今年で9回目を迎えたこの絵画コンテストのテーマは「レバノンから見た日本」で、5歳から16歳までのレバノン人の生徒が参加しました。子どもたちのユニークな視点から描かれた「日本」が展示され、桜の花や富士山、着物姿の人物、そして漫画『NARUTO』の主人公など、絵を通じて日本の美しさや魅力が描かれた作品が並びました。コンテストの参加者にはLEBA-JICAから感謝状が贈られ、入賞者には表彰状と絵画セットが贈呈されました。

この絵画コンテストは、レバノンの子どもたちが芸術活動を通じて日本の風景、伝統行事、現代文化を表現し、日本文化を学ぶ貴重な機会となっています。LEBA-JICAは今後も文化交流を通じて両国の絆を強化し、理解を深める活動を継続していきます。

子どもたちの絵画①

子どもたちの絵画②

コンテストの様子

Reported by
ゼイナ職員

JICAシリア事務所

離任・着任あいさつ

>>> 離任あいさつ

柳竜也 前次長

2019年4月から約5年間、関係者一同が複合的に困難な状況下でも、安全や健康を最優先に過ごし誰一人大きな事件、事故、病気等に遭うことも無く、様々な取組を行い得たのは、ひとえに皆様のご理解やご協力のおかげであり、心から御礼申し上げます。

2011年の紛争以降、現在も6.5百万人のシリア人難民数が世界最多、7.2百万人が国内避難民、国内人口の9割が貧困レベル以下、13百万人が食糧不足、通電は数時間/日、ガソリンや調理用ガスは配給停滞等と、悲しい状況が継続、更に悪化しています。

関係者一同、人々に必要とされる協力の可能性を模索し続けようと、日々可能な範囲で前向きに取り組んでおります。引き続き、ご関心、ご理解、ご支援等賜りますよう、宜しくお願い致します。

<<< 着任あいさつ

川谷暢宏 新次長

写真は2006年シリア・マルガット城にて（当時28歳）

皆様、こんにちは。3月より柳前次長の後を継ぎ、シリア事務所次長を拝命しました川谷　暢宏（かわたに　のぶひろ）と申します。私は2021年9月にヨルダン事務所に赴任し、同じ事務所内にあるシリア事務所の方々からシリアやレバノンの状況について伺っていましたが、今般正式にシリア事務所業務に関わることができ、大変光栄に思います。

私は2003年にJICAに新卒で入構し、2番目の配属先である社会開発部（現社会基盤部）時代、ラタキアの港湾運営の改善のための技プロを担当し、2006年にはダマスカス、ラタキア、タルトゥースに出張しました。

シリアは私にとって6か国目の出張でしたが、仕事の面のみならず、人々の優しさ、食のおいしさ、歴史の深さ、街の美しさ、文化の豊かさと、これまでのJICA人生20年で出張に行った20か国以上の国の中でも、今でも最も印象に残る国です。現在、残念ながらシリアには容易に行くことができませんが、いつか平和な姿に戻ることを願って、一つ一つ小さなことからシリアの安定と平和のために取り組んで参ります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

アハバールカシオンへのご寄稿・ご感想・お問い合わせは下記メールにて受け付けております。

お問い合わせ sr_oso_rep@jica.go.jp

ホームページ シリア ｜ 海外での取り組み - JICA

編集後記

ヨルダンでは10月の中頃から気温が徐々に下がってきました。太陽の光が和らぎ、風が気持ちよく、ウォーキングとハイキングに勤しんでいます。最首